

[目次に戻る](#)

【SR-7 評価シート エビデンス総体】

治療ガイドライン	がん薬物療法に伴うEVに関する合同ガイドライン
対象	がん薬物療法に伴うEVが生じた者
介入	デクスラゾキサンを使用する
対照	デクスラゾキサンを使用しない

*バイアスリスク、非直接性
 各ドメインの評価は「高 (-2)」、「中/疑い (-1)」、「低 (0)」の3段階。
 まとめは「高 (-2)」、「中 (-1)」、「低 (0)」の3段階でエビデンス総体に反映させる。
 **上昇要因

エビデンス総体

アウトカム	研究デザイン	研究期間	スア	質	一	擁	精	接	直	ま	バ	版	観	リスク人数 (アウトカム率)		ハ	標	標	95	の	ス	ン	デ	ビ	重	* コメント
														分群	分群											
外科的処置 (デブリ・植皮) の減少	症例報告の総括/1 単一群試験/1 多施設レトロ試験/1 症例報告 (胸腔) /1		-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	NA	NA	NA	107	104	97.2	NA	NA	NA	B (中)	9点	非一貫性：胸腔漏出の症例のみばらつきがあるが、その他の試験では外科的処置の減少が示されている。	
入院・来院日数の延長	単一群試験/1 症例報告/2		-1	-1	-2	0	0	0	0	0	0	1	NA	NA	NA	56	24	42.9	NA	NA	NA	C (弱い)	6点	入院の日数は幅が広く、血管外漏出の程度によると考えられる。投与しない例との比較データではない		
治療スケジュール通りの投与? (可能であった)	症例報告の総括/1 単一群試験/1 多施設レトロ試験/1 症例報告 (胸腔) /2		-1	0	-1	0	0	0	0	0	0	1	NA	NA	NA	111	79	71.2	NA	NA	NA	B (中)	2点	特記なし (治療が予定通りに進むことは今後の改善につながると考えられるため、「重要性」はもう少しあげてもよいのでは?)		
デクスラゾキサンの副作用	症例報告の総括/1 単一群試験/1 多施設レトロ試験/1 症例報告2 (1: 胸腔、1: 末梢)		-1	0	-1	0	0	0	0	0	0	1	NA	NA	NA	136	87	64	NA	NA	NA	B (中)	6点	介入研究である文献E3より、副作用について、any AE, any gradeで評価、化学療法によるAEの可能性も否定はできない。デクスラゾキサンの直接的な副作用はデクスラゾキサン投与部位の静脈炎と局所反応のみの可能性はあるが断定はできない。デクスラゾキサンの副作用と判断するには比較対象 (Control群) がいないため困難である。		

コメント (該当するセルに記入)

***重要性は、委員がアウトカムごとに決めた点数